

メッセージ
日本国民救援会
会長 鈴木亜英

八〇年のたたかひの歴史に誇りと確信を深め、警察の不いまず。この間の私たまた、来年5月からして、平和、人権と民るとともに、前大会で当な干渉をはね返し、ちのたたかひと、国民の実施にそなえて、全主義を発展させるた改定した「日本国民救 県内での国民救援会の の変化が、大きく情勢 国で裁判員制度のもとに、救援運動をさら 援会のすすむ道(綱領) 信頼を高めました。 を切り開き、私たち国 での救援運動のすすめ に飛躍させましょう。 第三〇回岩手県本部 をもとに、新たな救援 みなさんは、二度に 民が主権者として国の なたについて、中央本 予想される解散・総 にたいして、中央本部 運動の飛躍を勝ちとろ わたる地震の被災を乗 政治を動かすことがで 部が作成した資料にも 選挙で言論・表現の自 からご挨拶を申し上げ うという意気込みにあり越えて、岩手県本部 きる展望が生まれてき とづいて学習と論議、 由、選挙運動の権利を ます。 解散・総選挙をめぐ を記念するにふさわし 成功させ、葛飾ビラ配 こうしたなかで、国 ます。労働組合、民主 う。 日程が流動的になか い大会となりました。 布事件の荒川さんを招 民の不満を抑え込もう 団体とともに実行委員 すべての特件勝利 で、今日、明日と中央 県本部のみなさんは、 いた集会も成功させま と、治安体制の強化が 会をつくって学習会を めざし、有権者比0・ 常任委員会が開催され、 力を合わせてすべての した。県本部のみなさ すすめられています。 計画し、広く参加を呼 1%の会員をめぐして 担当役員を派遣できま 支部が成果をあげて目 んのねばり強い取り組 続発するえん罪事件、 びかけている経験も生 いるそう奮闘しましよ せん。まことに申し訳 標七七七名の三カ年計 みに、深く敬意を表し して言論弾圧とのた まれています。 う。 ありますませんが、メセー 画を達成し、過去最高 ます。 たかひと、今私どもに いま情勢は、国民救 中央本部も、ともに ジにてご挨拶にかえさ の峰で全国大会を迎え いま、悪政が国民と 課せられた責務は、い 援会を求めています。 全力をあげる決意を表 せていただきます。 られました。これが全 の矛盾をひろげるなか つにも増して重くかつ 本日の大会を契機に、 明してご挨拶とします。 第五四回全国大会は、 国を大きく励ましまし で、自民党政治が深刻 大きいものであると痛 八〇年のたたかひの歴

特別決議
会員へのアピール

全県の救援会員のみなさん 本日私たちは、日本国民救援 の存在と役割は、今ほど重要 「粘り強くたたかえば道を開き 「北陵クリニック事件」 (守 ある「自立した支部活動の6 とができました。七月に愛知 たかえる」 「地域になくは 県本部結成三〇年記念講演 大助さん) の最高裁に向けて つの重点」に留意し、奮闘す 県蒲郡市で開催された、創立 ならない存在」として、本大会 (講師山田善二郎会長) や の支援活動に全力をあげましょ るものです。 全県の救援会員のみなさん、 私たち国民救援会は、これ ち早く取り組んだ「葛飾ビラ やその問題点を明らかにし、 員制度の下での支援のあり方 共に奮闘いたしましょう。 右決議します。

たな貧困や格差を広げる、改 判決を勝ちとり確定させまし こうしたとくくみの教訓を すものであり、本大会の名に 憲と国民監視の方向が強めら た。また、県本部や支部の連 しっかりと踏まえさらなる支 おいてその暴挙に対し抗議を れる中で開かれたものでした。 携したとりくみで支援活動 を援活動にとりくまなければな するとともに、その支援を決 議するものです。 こうした情勢の中では、人権 広げて来た布川事件は、「再りま せん。 冤罪・再審事件では引きつづ 岩手県本部は、本大会にお と民主主義を守る国民救援会 審開始決定」を勝ちとるなど、 冤罪・再審事件では引きつづ 岩手県本部は、本大会にお 念すべき大会を成功させるこ 「救援会があつたからこそた を私たちに与えています。 「布川事件」の支援、仙台の 大の強化と支部活動の基本で

「再審開始決定」がだされ 支援にたずさわって来ました。 本部が全国大会に向けて会員 一関修紅高等学校教員四名の 第三〇回岩手県本部大会 「戦争をする国」づくりで新 えた「引野口事件」は、無罪 きな力となりました。 不当処分問題は、平和な教育 環境と人権と民主主義を脅か

